

令和6年度 第1回
徳島県読書バリアフリー推進協議会

別冊資料

※修正版

基礎資料①	徳島県読書バリアフリー推進計画」策定までの経緯	…… 1
基礎資料②	国の法律（読書バリアフリー法）及び基本計画について	… 2
基礎資料③	「徳島県読書バリアフリー推進計画」について	…… 3
基礎資料④	読書バリアフリーの取組状況について	…… 5

.....
【議事関係資料】

資料①	県の「読書バリアフリー推進事業」について	…… 7
資料②	令和5年度「読書バリアフリー推進事業」事業報告	…… 8
資料③	令和6年度「読書バリアフリー推進事業」計画及び進捗状況	… 12

※別添資料 ・ 高校生のための点訳・音訳講習会チラシ
・ バリアフリー図書セットチラシ
・ 読書バリアフリー啓発についてのチラシ

令和6年9月12日
徳島県教育委員会生涯学習課

基礎資料①

「徳島県読書バリアフリー推進計画」策定までの経緯

1 国の動き

- ①平成26年(2014) 国連の「障害者の権利に関する条約」批准
- ②平成28年(2016) 「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律」
(障害者差別解消法)
- ③平成30年(2018) 「盲人、視覚障害者その他の印刷物の判読に障害のある者が発行された著作物を利用する機会を促進するためのマラケシュ条約」締結承認
- ④平成30年(2018) 著作権法改正

【著作権法改正の概要】

- (1)視覚障がい者等のために書籍の音訳等を著作権者等の許諾なく行うことを認める。
- (2)対象を視覚障がい者のほか、発達障がい者、肢体不自由等により書籍を持てない者も含む。
- (3)音訳等を行える団体等として、障がい者施設、図書館等の公共施設の設置者、一定の条件を満たすボランティア団体等も加わる。
- (4)インターネットによる配信やデータのメール添付による送信を認める。

- ⑤令和元年(2019)6月 「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」
(読書バリアフリー法) 施行
- ⑥令和2年(2020)7月 「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する基本的な計画」(読書バリアフリー基本計画) 策定

2 県の動き

①令和3年(2021)1月 「徳島県読書バリアフリー推進協議会」設置

(1)第1回協議会(令和3年1月25日(月))

- ・「徳島県読書バリアフリー推進協議会の設置」及び「視覚障がい者等の読書に関する現状と課題」について
- ・委員からの意見聴取及び協議

(2)第2回協議会(令和3年2月19日(金))

- ・「徳島県読書バリアフリー推進計画」骨子案について
- ・委員からの意見聴取及び協議

(3)第3回協議会(令和3年5月28日(金))

- ・「徳島県読書バリアフリー推進計画」骨子案に係るパブリックコメントの実施結果について
- ・「徳島県読書バリアフリー推進計画(案)」について

②令和3年(2021)7月 「徳島県読書バリアフリー推進計画」策定

基礎資料②

国の法律（読書バリアフリー法）と基本計画について

1 目的

視覚障害者等の読書環境の整備を総合的かつ計画的に推進し、もって障害の有無にかかわらず全ての国民が等しく読書を通じて文字・活字文化の恵沢を享受することができる社会の実現に寄与することを目的とする。

2 「視覚障害者等」の定義について

視覚障害、発達障害、肢体不自由その他の障害により、書籍（雑誌、新聞その他の刊行物を含む）について、視覚による表現の認識が困難な者

3 計画策定についての規定

○国（法第7条）

「基本計画を定めなければならない。」

○地方公共団体（法第8条）

「基本計画を勘案して（中略）計画を定めるよう努めなければならない。」

4 地方公共団体における計画策定の留意点

- ①国計画は、当面の取組の方向性を示したものの。対象期間は令和2年度から令和6年度までとする。
- ②国においても、引き続き関係者による協議会を設置し、課題の解決に向けた取組を実施していく方針。実施にあたって国は必要な財源の確保に努める。
- ③対象者である視覚障害者等には、盲、弱視（ロービジョン）、盲ろう、発達障害、肢体不自由等、様々な特性があることを踏まえて取り組むこと。
- ④聴覚障害者、知的障害者、高齢者、外国人等、様々な状況により読書や図書館の利用に困難を伴う者への配慮も認識して取り組むこと。
- ⑤国、地方公共団体、公立図書館、社会福祉法人、教育機関、企業等の関係者相互の連携及び協働が重要。
- ⑥策定にあたっての各種会議の構成員には、視覚障害者等の読書環境の整備を支援する団体の関係者や視覚障害等当事者が含まれるよう努めること。
- ⑦当面の取組の方向性を示した計画を策定の上、策定後も実態把握の実施や定期的な評価、より具体的な目標や達成時期等についての検討をすること。
- ⑧市町村に対しても計画策定を働きかけること。
- ⑨支援施策についてHP・SNS・広報誌等による周知活動に努め、周知にあたってはテキストや点訳データの準備など、障害特性を考慮した対応をすること。

基礎資料③

「徳島県読書バリアフリー推進計画」について

1 目的

視覚障がい等により、読書や図書館利用が困難な方々の読書環境を整備・充実させることによって、障がいの有無に関わらず、全ての県民が等しく文字・活字文化の恵沢を享受できる社会の実現を図ることを目的とする。

2 対象者

- (1) 読書や図書館利用に困難のある視覚障がい者、発達障がい者、知的障がい者、寝たきりや上肢に障がいがある等の理由により、書籍を持つことやページをめくることが難しい、あるいは眼球使用が困難である身体障がい者。
- (2) 障がい者手帳の所持の有無は問わない。

3 計画期間

令和3年度～令和7年度の5年間

4 基本的な施策の方向

- (1) アクセシブルな書籍等の充実及び製作人材の育成・確保 つくる・そろえる
(アクセシブルな＝利用しやすい)

- ・点字図書館、公立図書館、大学図書館、学校図書館における書籍の充実
- ・障がいの特性や程度に応じた、様々な分野の書籍等の充実
- ・相互貸借できるための連携体制の構築
- ・若年者の製作人材の育成（高校生の音訳・点訳講習会、製作体験）
- ・地域における製作人材の育成、継続的な活動の検討
- ・多様な関係者による効率的な製作体制の検討
- ・製作を行う者への製作手順の共有、効率化

- (2) アクセシブルな書籍等の入手及び利用のための支援 つかう

- ・「国立国会図書館視覚障がい者等用データ送信サービス」、「サピエ図書館」（視覚障がい者等が利用できるインターネット図書館）の利用促進
- ・一人一台端末を活用した、児童生徒のマルチメディアデイジー図書（音声、文字、画像で楽しめるデジタル図書）等の利用促進
- ・様々なバリアフリー図書や読書支援機器の貸出、体験機会の確保
- ・中途視覚障がい者等への読書支援機器の周知
- ・様々なバリアフリー図書の紹介
- ・ICTスキルの習得支援、そのための人材育成及び公立図書館等職員への研修の実施

(3)読書を支援する環境の充実と人材の養成

ささえる・ひろげる

- ・ 図書館等のバリアフリー化、障がい者サービスの充実
- ・ 点字図書館と公立図書館等とのネットワークの構築
- ・ 学校図書館を活用した読書支援の充実のため、司書教諭・学校司書及び図書館サポーターの配置促進
- ・ 読書や図書館利用が困難な児童生徒に対する公立図書館の利用方法の習得支援、そのための点字図書館・公立図書館・学校図書館の連携
- ・ 読書及び図書館利用を支援する職員への障がい者サービスに関する研修の実施、ピアサポートできる司書及び職員の育成及び環境整備
- ・ 「図書館サポーター養成講座」において、視覚障がい者等への読書支援に関する講座開設
- ・ 読書バリアフリーについての県民への理解促進

基礎資料④

読書バリアフリーの取組状況について

令和5年度

	【国の動き】	【県の動き】
4月	令和5年度「読書バリアフリーコンソーシアム」の公募開始	○市町村訪問で、各教育委員会や関係機関に読書バリアフリー啓発ポスター・チラシ配布と掲示の依頼 ○各学校・公立図書館等へ「読書バリアフリーコンソーシアム」公募について案内
5月		○学校図書館協議会で、バリアフリー図書セット貸出について説明、読書バリアフリー啓発ポスター配布と掲示を依頼
7月		○「第1回公立図書館等職員研修会」 ・読書の可能性と未来について（講演） ・読書バリアフリーの現状と課題（講演）
8月		□「図書館サポーター養成講座」 ・視覚障がい等のある児童生徒への読書支援の講座を開催（ひろがる読書推進事業） ○「高校生のための音訳・点訳講習会」開催
12月		○音訳図書製作体験（～2月） （城ノ内中等教育学校（高等部）放送部）
2月	令和6年度「読書バリアフリーコンソーシアム」の公募開始	○各学校・公立図書館等へ「読書バリアフリーコンソーシアム」公募について案内 ○「第2回公立図書館等職員研修会」 ・ミニ福祉機器展（展示・説明） ・読書の多様性を支える仕事をどう作っていくか（講演）
3月		○読書バリアフリー啓発ポスター作成

成果指標 (令和6年3月までの実績)

	成果指標	R 2	R 3	R 4	R 5	R 7 目標	
(1) つくる・ そろえる	点字図書館のアクセシブルな書籍等〈タイトル数〉	所蔵数	21,834	22,017	22,158	22,425	22,834
		年間貸出数	7,175	6,313	5,158	4,586	7,200
	点字図書館のアクセシブルな書籍等のサピエ図書館への年間アップロード数		95	87	83	82	100
	県立図書館のデイジー図書・マルチメディアデイジー図書〈タイトル数〉	所蔵数	464	486	522	554	565
		年間貸出数	20	83	105	151	40
	県立図書館の音声読み上げ対応電子書籍〈タイトル数〉		333	388	535	833	433
	点訳・音訳奉仕員の年間養成者数		20	8	13	24	30
(2) つかう	高校生の点訳・音訳講習会及び製作体験 参加者数	累計	—	17	53 R4 36	83 R5 30	100
	サピエ会員（個人会員）登録者数		111	111	117	122	150
	点字図書館の利用登録者数		729	725	712	709	850
	点字図書館のアクセシブルな書籍等を利用するための端末機器の延べ貸出回数		8	11	4	12	50
(3) ささえる・ひろげる	公立図書館等へのバリアフリー図書セットの貸出件数	累計	—	—	5	17 R5 12	50
	図書館職員等への読書バリアフリー関連講座や研修会の受講者数	累計	—	59	133 R4 74	231 R5 98	150
	R5 公立図書館等職員研修会 64名 図書館サポーター養成講座 34名						

※ 累計

※ 累計

※ 累計

※ 累計

※ 累計

資料①

県の「読書バリアフリー推進事業」について

1 目的

「徳島県読書バリアフリー推進計画」における3つの基本的な施策の方向に基づき、視覚障がい、発達障がい、知的障がい、上肢障がい等により、活字による読書や図書館利用が困難な方々の読書環境を整備・充実させることによって、障がいの有無に関わらず、全ての県民が等しく文字・活字文化の恵沢を享受できる社会の実現に向け、関係機関と連携して事業に取り組む。

2 事業委託先

社会福祉法人 徳島県社会福祉事業団 視聴覚障がい者支援センター

※厚労省補助事業活用

「地域生活支援促進事業（地域における読書バリアフリー体制強化事業）」

3 事業内容

(1)アクセシブルな書籍等の充実及び製作人材の育成・確保 つくる・そろえる

高等学校での音訳図書製作体験

高校生のための点訳・音訳講習会

音訳図書等の製作を担うボランティアの高齢化及び新規人材の育成が課題となっていることから、高等学校放送部等において、作成したデイジー図書を視覚障がい者等に利用していただくことを目途に、音訳図書の製作体験を実施し、若年者の製作人材育成を図る。

(2)アクセシブルな書籍等の入手及び利用のための支援 つかう

公立図書館等における読書支援機器・バリアフリー図書の利用促進

視覚障がい者等の活字による読書が困難な方々が、読書支援機器や様々なバリアフリー図書を利用して読書に親しむことができるよう、公立図書館等に「デイジー図書再生機器」及び「バリアフリー図書セット」の貸出体制を整備し、広く県民の皆様に体験していただくことで、様々な障がいの方に利用いただけるよう取組を進める。

(3)読書を支援する環境の充実と人材の養成 ささえる・ひろげる

公立図書館等職員研修

視覚障がい者等が身近な地域の図書館を利用しやすい環境づくりを図るため、公立図書館等職員を対象に、読書支援機器・端末機器の操作方法、障がい特性に応じた読書媒体や支援ツールの知識、サピエ図書館の利用方法等の、障がい者サービスの知識習得のための研修を行うとともに、点字図書館や公立図書館等の連携体制を構築する。

資料② 令和5年度事業の事業報告

Ⅰ 高等学校での音訳図書製作体験

※令和5年4月20日（木）13:00～ 高校放送部顧問会議にて
「読書バリアフリー推進事業」の説明及び体験校（1校）の依頼

内 容：録音図書の製作に必要な知識と技術を学び、録音図書の製作を体験する。

実施期間：令和5年12月から令和6年2月までの間
全6回12時間

体験者：徳島県立城ノ内中等教育学校（高等部）放送部員 3名

会場：徳島県立城ノ内中等教育学校

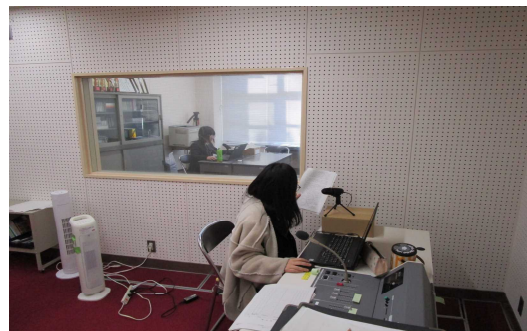
講師：視聴覚障がい者支援センター 平田 清美氏
視聴覚障がい者支援センター 伊澤 深雪氏

製作図書：梶井基次郎『檸檬』（青空文庫）

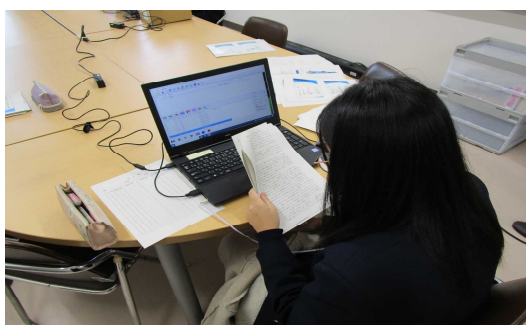
1	令和5年12月25日（月）	録音図書について
2	令和5年12月26日（火）	録音ソフトの操作方法①
3	令和5年12月27日（水）	録音ソフトの操作方法② 録音作業
4	令和6年1月9日（火）	修正作業① 校正作業
5	令和6年1月12日（金）	修正作業② 編集作業
6	令和6年2月9日（金）	録音図書CD製作完了・利用者からの講評



・録音ソフトの操作方法



・録音作業



・修正作業



・利用者からの講評

2 公立図書館等における読書支援機器・バリアフリー図書の利用促進

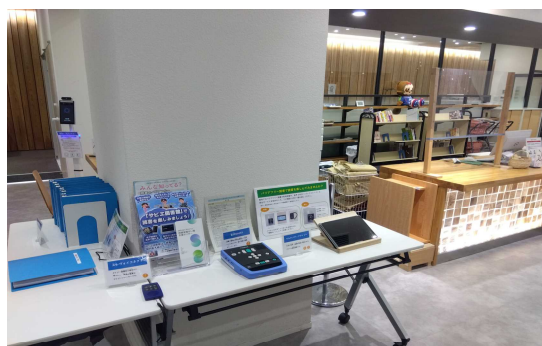
- (1) 内 容：①デージー図書再生機器の貸出（R4整備）
 ②バリアフリー図書セットの整備・貸出(R4整備、R5拡充)
 ・音声デージー図書、マルチメディアデージー図書、点字図書等30タイトル程度を8セット整備
 ※R5～マルチメディアデージー用のタブレット拡充
- (2) 貸出対象：公立図書館、学校図書館、特別支援学校等
- (3) 貸出内容：公立図書館等における体験会等への貸出
 公立図書館等職員研修会等への貸出
 各学校の授業や「総合的な探究の時間」等への貸出

【バリアフリー図書セットの貸出実績】

鳴門市図書館サポーター	5セット	※2回貸出
美馬市立図書館	1セット	
北島町立図書館	1セット	
藍住町立図書館	2セット	
徳島県立阿波高等学校	1セット ・ 2セット	
阿南市立山口小学校	1セット	
鳴門教育大学図書館	1セット	
徳島県立城北高等学校	1セット	
徳島県立那賀高等学校	1セット	
鴨島図書館	1セット	
徳島県立名西高等学校定時制	1セット	



・デージー図書体験（北島町立図書館）



・バリアフリー図書セットの展示(美馬市立図書館)



・学校祭でバリアフリー図書を展示（阿波高）



・鴨島図書館でのバリアフリー図書体験会（阿波高）

3 公立図書館等職員研修 年2回開催

第1回研修会

- (1)日 時 令和5年7月31日(月) 10:00～15:00
- (2)場 所 徳島県立障がい者交流プラザ 3階 研修室
- (3)対 象 県立及び市町村立図書館職員等(県議会図書室含む)
市町村教育関係職員(図書館サポーター含む)等
高等学校及び大学図書館関係者
- (4)参 加 22名
- (5)内 容
- 〈午前〉講演 「読書の可能性と未来について」
講師 慶應義塾大学 自然科学研究教育センター
共同研究員 御園 政光 氏(オンライン)
- 〈午後〉講演「読書バリアフリーの現状と課題」
- ・「弱視の方の読書について」
発表者 徳島県立徳島視覚支援学校
教諭 内田 敬久 氏
 - ・「肢体不自由の方の読書について」
発表者 社会福祉法人 徳島県身体障害者連合会
理事長 林 徳太郎 氏

第2回研修会

- (1)日 時 令和6年2月8日(木) 10:00～15:00
- (2)場 所 徳島県立障がい者交流プラザ 3階 研修室
- (3)対 象 県立及び市町村立図書館職員等(県議会図書室含む)
市町村教育関係職員(図書館サポーター含む)等
小・中・高・特別支援学校図書館関係者及び保護者
大学図書館関係者
- (4)参加者 42名 ※当日欠席者には、オンデマンド配信を案内
- (5)内 容
- 〈午前〉ミニ福祉機器展
- ・読書支援機器 (有限会社システムギアビジョン)
(徳島県障がい者ICTサポートセンター)
 - ・バリアフリー図書 (有限会社読書工房)
 - ・対話支援機器 (ユニバーサル・サウンドデザイン株式会社)
- 〈午後〉講演 「読書の多様性を支える仕事をどう作っていくか
ー出版業界の最新動向について」
講師 有限会社 読書工房 代表 成松 一郎 氏



・成松一郎氏の講演



・ミニ福祉機器展（読書支援器）

4 **高校生のための音訳・点訳講習会**

点訳講習会

- (1)日 時 令和5年8月4日（金）14:00～16:30
- (2)場 所 あわぎんホール4階 会議室2・3
- (3)参 加 高校生16名
- (4)講 師 視聴覚障がい者支援センター 三井 貴浩氏
補助員 視聴覚障がい者支援センター 上原 あい氏
- (5)内 容 点字の基礎、点訳のルール、点字盤を使った点字体験など

音訳講習会

- (1)日 時 令和5年8月25日（金）14:00～16:30
- (2)場 所 あわぎんホール4階 会議室3・4
- (3)参 加 高校生11名
- (4)講 師 視聴覚障がい者支援センター 平田 清美氏
補助員 視聴覚障がい者支援センター 庄野 久美氏
- (5)内 容 デイジー図書について、専用ソフトを使った録音体験など



・点字盤を使った点字体験



・専用ソフトを使って録音体験

資料③ 令和6年度の事業計画及び進捗状況

1 高等学校での音訳図書製作体験

内 容：録音図書の製作に必要な知識と技術を学び、録音図書の製作を体験する。

実施期間：令和6年12月から令和7年3月までの間（予定）
全6回12時間

体験者：徳島市立高等学校 放送部員

※令和6年4月18日（木）15:00～ 高校放送部顧問会議にて

「読書バリアフリー推進事業」の説明及び体験校（1校）の依頼

会 場：徳島市立高等学校・障がい者交流プラザ

講 師：視聴覚障がい者支援センター職員・音訳ボランティア

2 公立図書館等における読書支援機器・バリアフリー図書の利用促進

内 容：①デイジー図書再生機器の貸出（R4整備）

②バリアフリー図書セットの整備・貸出（R4整備、R5拡充）

・音声デイジー図書、マルチメディアデイジー図書、点字図書等30タイトル程度を5セット整備

・ブックリストの作成

貸出対象：公立図書館、学校図書館、特別支援学校、点訳等のボランティア団体

貸出内容：公立図書館等における展示や体験会等への貸出

公立図書館等職員研修会等への貸出

各学校の授業や「総合的な探究の時間」等への貸出

バリアフリー図書体験児童への貸出

周知方法：①「バリアフリー図書セットチラシ」（別添資料）

②「読書バリアフリー啓発ポスター・リーフレット」（別添資料）

※①、②について市町村訪問、小中学校校長会、学校図書館協議会において、配布及び説明。

③徳島県ホームページ、教育委員会SNS、教育Joruri掲示板（県立学校対象）、グループウェア掲示板（小・中学校対象）に、バリアフリー図書に関する記事を掲載。

【バリアフリー図書セットの貸出について】

(1)「図書館サポーター養成講座②」（未来につなぐ読書推進事業）への貸出

日 時：令和6年7月20日（土）13:00～15:30

場 所：徳島県立総合教育センター 2階 大研修室

参 加：32名

内 容：「視覚障がい等のある児童生徒への読書支援」

講 師：視聴覚障がい者支援センター 上原 あい氏



・バリアフリー図書についての講義



・バリアフリー図書を展示

<受講者の感想より>

- ・点字図書しか知らなかったし、初めて見て触りました。デージー図書、マルチメディアデージーは初めて聞く言葉でした。目の前で機械を使って説明いただき分かりやすかったです。
- ・視聴覚障がい者支援センターの業務内容や、読書バリアフリー法など、今まで知らなかったことを知ることができ、大変勉強になりました。バリアフリー図書を利用すれば、視覚障がいだけでなく、学習障がい等で、読書が苦手だったり諦めていた子も、読書を楽しむことができるということが分かりました。
- ・目が不自由な方だけではなく、本が持てないなど、様々な理由で読書を楽しめない方々がいる事を初めて知った。そして、そんな方々も読書が楽しめる用意があることを知り、素晴らしいことだなと思った。

(2) 公立小学校への貸出

期 間：令和6年5月下旬～7月下旬

内 容：視覚障がいのある児童が体験利用。
朝の読書の時間や休み時間等に、
ブレストーク（音声デージー）を活用
して、読書を楽しんでいる。



(3) 小松島西高等学校・勝浦校への貸出

期 間：6月中旬～

内 容：エッセイスト三宮麻由子さんの講演（高校生のための文化講演会）にあわせて、
学校図書館に展示された。
福祉科の生徒が、授業の中で、バリアフリー図書体験した。
本校での展示がきっかけとなり、勝浦校の学校図書館でも展示されている。



3 公立図書館等職員研修 年2回開催

①第1回研修会 ※令和6年度第2回徳島県図書館職員研修会を兼ねる

(1)日 時 令和6年9月13日(金) 10:00～12:00

(2)場 所 徳島県立図書館 3階 集会室1

(3)内 容

〈午前〉講演 対面

演題「図書館のソフト面でのバリアフリー～わかりやすい情報・サービスをめざして」

講師 一般社団法人スローコミュニケーション
副理事長 羽山 慎亮 氏

②第2回研修会

(1)日 時 令和7年2月7日(金) 10:00～15:30

(2)場 所 徳島県立21世紀館1階 イベントホール

(3)内 容

〈午前〉講演 対面

演題「読書バリアフリー法を活用して図書館・学校図書館は何をすべきか(仮)」

講師 日本図書館協会障害者サービス委員会 委員長
埼玉県立久喜図書館
司書主幹 佐藤 聖一 氏

〈午後〉①事例報告(対面及びオンライン)

(ア)テーマ「県外の公立図書館における障がい者サービスの先進事例」

発表者 県外の公立図書館職員

(イ)テーマ「りんごの棚から始まる学校・学校図書館の取組」

発表者 りんごプロジェクト

(ウ)テーマ「高等学校における公立図書館と連携した読書バリアフリーの取組」

発表者 徳島県立阿波高等学校

②質疑応答・意見交換

コーディネーター 日本図書館協会障害者サービス委員会
委員長 埼玉県立久喜図書館
司書主幹 佐藤 聖一 氏

4 高校生のための音訳・点訳講習会

点訳講習会

- (1)日 時 令和6年8月2日(金) 14:00～16:30
(2)場 所 あわぎんホール4階 会議室2・3
(3)参 加 高校生13名(8校)
(4)講 師 視聴覚障がい者支援センター 上原 あい氏
補助員 視聴覚障がい者支援センター 西崎 千尋氏
(5)内 容 点字の基礎、点訳のルール、点字盤を使った点字体験など



・点字盤を使った点字体験



・県立図書館のバリアフリー図書を展示

<参加者の感想>

- ・つなぎ符や数符など、読みやすい工夫がたくさんあることに興味を持った。
- ・点字を書く面と読む面で文字がどちらからでも読めたことが面白かった。
- ・機会があれば、点訳のボランティアに参加したい。

音訳講習会

- (1)日 時 令和6年8月9日(金) 14:00～16:30
(2)場 所 日本フネン市民プラザ2階・多目的室(中)
(3)参 加 高校生8名(3校)
(4)講 師 視聴覚障がい者支援センター 平田 清美氏
補助員 視聴覚障がい者支援センター 三井 昭代氏
(5)内 容 デイジー図書について、専用ソフトを使った録音体験など



・専用ソフトを使って録音体験



・読書バリアフリーののぼりと一緒に

<参加者の感想>

- ・録音の微調整が難しかった。大変だけどやりがいのあるボランティアだと感じた。
- ・「届けたい」という気持ちが声になって、実際に助けになることが素晴らしい。
- ・大学受験が終わったら、ボランティアをさせていただこうと思います。

5 その他

・徳島県内医師会会員へ読書バリアフリー啓発のチラシ送付

・徳島県立総合教育センター1階マナビィセンターに「りんごの棚」設置



※りんごの棚

「りんごの棚」は、特別なニーズのある子どもを対象とした公共図書館サービスの一つとして、スウェーデンの図書館でスタートしました。

「りんごの棚」には、紙に印刷された資料だけでなく、利用しやすい形式のさまざまな資料（アクセシブルな資料）や読書を支援するための道具があります。



・バリアフリー図書セットの活用に関する好事例を紹介

- ①プレクストーク等の説明資料
- ②バリアフリー図書の説明資料
- ①、②をセットとともに貸出先に配布

・「あどばいすタイム」で「読書バリアフリー」に関する内容をオンデマンド配信
(徳島県立総合教育センター 特別教育支援教育課運営)